

嵐電

講演会

心の時代

「仏教とおもてなしの心」



「おもてなし」という言葉が独り歩きしていませんか。
 仏教の実践と非常に深い関係がある、「おもてなし」の本質について、
 退蔵院の副住職で「京都観光おもてなし大使」を務める
 松山大耕師にお話しいただきます。
 お話の後は、禅寺・退蔵院の庭園拝観をお楽しみいただけます。

退蔵院 副住職
松山大耕

日時 10月23日(日) 14:00—15:30
(受付開始:13:30)

会場 退蔵院

講師 退蔵院 副住職 松山大耕

テーマ 仏教とおもてなしの心

参加費 無料 庭園拝観付き(講演会終了後)

事前申し込み制 先着100名様

Eメール又はお電話にてお申し込みください。
お申し込み期限/10月20日(木)17時まで

お問い合わせ・お申し込み先
(京福電気鉄道(株)「心の時代係」)

Eメール: event@keifuku.co.jp
電話: 075-801-5315 (平日 9:00-17:00)

嵐電・北野線
「妙心寺」駅下車徒歩約7分





まつやま だいこう
松山 大耕

1978年京都市生まれ。2003年東京大学大学院農学生命科学研究科修了。埼玉県新座市・平林寺にて3年半の修行生活を送った後、2007年より退蔵院副住職。外国人に禅体験を紹介するツアーを企画するなど、新しい試みに取り組む。外国人記者クラブや各国大使館で多数講演を行うなど、日本文化の発信・交流が高く評価され、2009年5月、政府観光庁 Visit Japan 大使に任命される。また、2011年より京都市「京都観光おもてなし大使」。2016年日経ビジネス誌「次代を創る100人」に選出される。

2011年には、日本の禅宗を代表しヴァチカンにて前ローマ教皇に謁見、2014年には日本の若手宗教家を代表してダライ・ラマ14世と会談し、世界のさまざまな宗教家・リーダーと交流。2014年世界経済フォーラム年次総会(ダボス会議)に出席するなど、世界を股にかけ、宗教の垣根を越えて活動中。

【 著 書 】

- 「大事なことから忘れなさい ～迷える心に効く三十の禅の教え～」……世界文化社 2014年
 「ここを映す 京都、禅の庭めぐり」……PHP研究所 2016年



退蔵院

住 所 京都市右京区花園妙心寺町 35
 電 話 075-463-2855
 拝観時間 9:00 ~ 17:00
 拝観料 一 般 / 500円(高校生以上)
 小中学生 / 300円
 ※「嵐電1日フリーきっぷ」をお持ちの方は、クーポンで拝観料が1割引きになります。
 お問い合わせ <http://www.taizoin.com/>

退蔵院は、今から610余年前、室町時代の応永11年(1404)、波多野出雲重通が、妙心寺第三世無因宗因禅師に帰依して建立されました。

応仁の乱で妙心寺とともに炎上しましたが、1597年に亀年禅師によって再建され、現存の妙心寺山内寺院40余寺の中の古刹です。境内には、国宝「瓢鮎図」(模本)や史跡名勝・枯山水庭園「元信の庭」、四季折々の景色が美しい泡泉回遊式庭園「余香苑」があります。

「退蔵」という言葉には、「価値あるものをしまっておく」という意味があるように、陰徳(人に知られないようにして良い行いをする)を積み重ね、それを前面に打ち出すのではなく、内に秘めながら布教していくことを示しています。

「瓢鮎図」は、山水画の始祖といわれる相国寺の僧如拙が1415年に描き、現存する如拙の作品の中、最高傑作といわれ、また、日本最古の水墨画と伝わります。

瓢箪でどうすれば鮎が捕まえられるかという禅の問答が描かれ、この絵に対して、足利義持が、京都五山の31人の僧に賛詩を書かせたことから、絵の価値が更に高められました。また、美術史面からもみても貴重な絵です。